

2026年度 東海大学大学院 第2回 家族看護研究会

東海大学大学院家族看護学研究室では、
家族看護を様々な理論やツールを用いて分析しています。
今回は、「渡辺式」家族アセスメント/支援モデルを用いて分析し、
事例に適したアプローチ方法を検討します。

事例紹介

重度の基礎疾患を有する10代男性。

嚥下機能低下に伴う誤嚥性肺炎により入退院を繰り返している。

医療者は再発予防に向けた支援を提案するが、家族との認識の違いから話し合いは平行線を辿っていた。次第に家族は医療者への不信感を強め、支援の提案や関わりに対して拒否的あるいは批判的な言動を示すようになった。看護師は何とか介入を試みるものの、家族との溝は深まるばかりであった。この状況で、看護師は何を理解し、どのように関わればよいのでしょうか。

皆さんと一緒に状況を整理し解決の糸口を探します。

プロフィール：小泉織絵（家族支援専門看護師）
東海大学健康科学研究科を修了し、2016年家族支援専門看護師を取得。現在は、東海大学医学部看護学科の教員として日本の家族看護の在り方を追求し、実践と研究の両面から社会への還元を目指し活動している。

【日時】2026年8月1日(土)

【時間】13:00～16:00

【方法】対面開催

【会場】東海大学伊勢原キャンパス3号館

※参加ご希望の方は当日会場へお越しください。
事前申し込みは不要です。

問合せ先：東海大学家族看護研究会事務局担当（小泉）
ホームページ：<https://kazokuns-tokai.jp>
メールアドレス：ori-koi-ri-yu-mi-ku@tokai.ac.jp

